

しまね学校図書館活用コンクール 応募票

学 校 名	奥出雲町立横田中学校
学 校 長 名	高 橋 一 郎 印
記載責任者名	難 波 順 子
連絡先電話番号	(0854) 52 - 2331

(○) 読書活動	1 取組の概要					
	2 読書活動の資料・作品・写真等					
		活動等の名称	添付資料・作品等	添付数	活動中の写真の有無	
	1	読書マラソン ” T I M E ”	読書マラソン生徒用要項 活動の様子 (写真) 記録用紙 (コピー)	1 1 2	(有) ・ 無	
	2	親子 DE 読書	「親子 DE 読書」保護者生徒向け要項 おすすめ本リスト、本の展示 (写真) 感想用紙 (コピー)	1 1 2	(有) ・ 無	
	3	文化委員会による 図書館イベント	イベントの様子 (写真) 文化委員作成の図書館だより (コピー)	1 2	(有) ・ 無	
4	おすすめの本を読もう	おすすめの本・感想用紙 (写真) 生徒の感想文 (コピー)	1 2	(有) ・ 無		
() 学校図書館 を活用した 授業実践	1 取組の概要					
	2 学校図書館活用教育年間計画 ※どちらかに○をつけてください。 有 ・ 無					
	3 学校図書館を活用した授業実践の資料					
		単元名・資料名	学年	教科	添付資料等	添付数
	1					
2						
3						

※ 読書活動または学校項図書館を活用した授業実践のうち、いずれか一つに○をつけてください。

しまね学校図書館活用コンクール

取組の概要

学校名 奥出雲町立横田中学校

1 応募部門

(○) 読書活動部門

() 学校図書館を活用した授業部門

2 実践のねらい

- 読書への興味関心を高め、学校や家庭での読書習慣を少しでも身につけさせる。
- 学校図書館の存在を、生徒・保護者に PR し、学校図書館を活用してもらうとともに、学校と家庭、親（保護者）と生徒をつなぐ役割を担う。
- 読書活動に委員会活動を組み入れ、生徒主体の活動を通して図書館を活性化していく。

3 実践の概要（学校図書館とのかかわりがわかるように記すこと。）

1. 読書マラソン” TIME”

・全国読書週間の時期に合わせ、10日間読書に費やした時間を記録し、普段より多く読書の時間を設けるよう意識させた。また、読書記録をつけることで、自分自身の読書傾向や、他の人がどのくらい読んでいるのかなどを知る機会とした。朝読書の10分に学校での読書、家での読書の時間を加えて記録をする。意欲を持たせるために、上位の生徒及び上位のクラスを表彰する。読書マラソンに合わせ、「読むとやめられなくなる本」「ミステリー集」など、図書日よりで紹介し、図書館内で本の展示を行った。生徒会では、読書推進活動を行っている「文化委員会」で読書マラソンのしおりを作り、全校に配布したり、呼びかけを行ったりした。集計、表彰も委員会活動として行っている。

・読書マラソンは、3年前から本校で実践しており、過去2回はページ数を記録させていたが、本の規格、質、量が異なるため、ページ数ではなく、読書時間で記録をつけさせた。本校の生徒は、朝読書では熱心に本を読む生徒が多く、読書が好きという生徒は7割を越えるが、空き時間や家で読む生徒は半数もないという実態があり、読書習慣を少しでも身につけさせるねらいで数年行っている。10日間継続して記録をすることは少し面倒がる生徒もいるが、朝読書後に記録の時間をとるなど、クラス担任の先生方の協力を得ながら行っている。

2. 親子 DE 読書

・本校のPTA「研修活動部」の活動として、4日間、メディアやゲームなどに触れる時間を少なくしていつもと違うことや、親子で何か（読書、体力作り、クッキング、手伝い）をしようという取り組みが企画され、学校図書館として、親子読書の推奨を提案した。学校司書と国語科で親子読書におすすめの本を文書で紹介し、校内で展示を行った。生徒（保護者）に貸し出し申し込みをしてもらい、親子で読んで感想も書いていただいた（任意）。

3. 文化委員会による図書館イベント

・昼休みに1週間、日替わりでイベントを行った。月曜日は2年生女子、火曜日は1年生、というように、学年別に企画した。参加生徒は、上級生、下級生関係なく参加していた。図書館をより多くの生徒に知ってもらい、本に親しんでもらうために3、4年くらい前から行っている。今回は、本の題名だけを40個ぐらい挙げ、その本を図書館内から探してもらうという「本探しゲーム」、本の題名を隠し、表紙の絵で題名をあててもらう「本の題名あてクイズ」、何人かのグループになってリレー小説を作ってみる（図書館内の本を

利用して良い) という「図書館でリレー小説を作ろう」というイベントを行った。前回は、図書館で本を借りた生徒にのみイベント参加券を渡して実施したが、今回は誰でも参加できるものにした。多くの人に参加してもらうために上位に賞品を用意している。企画は学校司書、委員会担当教員など関わるが、生徒のアイデアを出来るだけ生かした。今後はブックトークや読み聞かせなどもしていく方向。イベントの様子については、文化委員会による図書だよりに載せた。また、図書館で楽しんでもらおうという目的で、学校司書によるピアノ演奏や教育実習生による楽器演奏リサイタルを行い、文化委員会が宣伝を担当した。

4. おすすめの本を読もう

・夏休みと冬休みに国語科の課題として、国語の教科書(1年～3年)にある読書案内の本99冊か、学校司書やボランティアによるブックトークで紹介された本を1冊を選び、内容のあらすじと感想を書かせ、授業で発表をしたり、図書館内外で掲示したりして紹介している。読書傾向が偏りがちな生徒に、読み応えのある作品に触れ、「読書力」を養うと共に、視野を広げるという目的で行っている。今のところ全校ではなく、学年の実態などに応じ、1つの学年で取り組んでいる。本校では3、4年ほど前から行っている。読書案内にある99冊×2冊を図書館に入れ、生徒が探しやすいように「おすすめシール」を背表紙に貼っている。また、ブックトークで紹介された本も必ず図書館に入れるようにしている。夏休みは最低3～5冊の読書課題を設け、1冊は読書案内の本で内容と感想を書くようにしている。

3 実践の成果

1. 読書マラソン” TIME”

・部活動や文化祭準備で忙しい時期ではあったが、家で全く読まない生徒が読むようになったり、休み時間も本を開いたりする生徒が増えた。この読書マラソンを通じて、感想の中に、「自分はこんなに読めるんだ」と自信を持つ生徒や、「楽しかった」「家で読む癖がちょっとついた」など読書を楽しみ、読書に挑戦する生徒が増え、貸出冊数も伸びた。

2. 親子 DE 読書

・PTA 活動に参入する形で今年初めて行った。年齢的に親子で共に読書活動を行うのには少し抵抗があるのでは、と考え、10組ぐらい希望者があれば、と予想していたが、15組近くの貸し出しがあり、反応も良かった。また、親子一緒ではないものの、ダウンメディアデーの4日間に一番多く行われたのが読書活動であったことも成果の1つと言える。

3. 文化委員会による図書館イベント

・数年前から行っているのも、委員会活動の1つとして、生徒の認知度も高い。文化委員会の生徒も主体的に本に触れることを楽しんでおり、参加している生徒にもそれが伝わっていると思われる。イベント以外にももっと他にも本に親しんでもらえる活動ができるのでは、と意欲が出てきている。また、文化委員会の手による図書館だよりにイベントの内容や感想を載せ、生徒へさらに発信できる活動へとつなげることができた。その他、昼休みの図書館内での音楽リサイタルも多く生徒が訪れた。読書活動とは無縁のものではあるが、図書館がいつもと違う場所となり、癒しの空間として存在したのは図書館の活性化という面から意義のあることだった。

4. おすすめの本を読もう

・「本の感想文を書く」というと身構える生徒が多いが、文章量を少なくし、読んだ本を友達に紹介することを前提とした課題にすると、抵抗なく取り組めた。読み応えのある本や、普段読まない本を読むことで、驚きや発見を書く生徒が多く、友達の感想を読み、自分の読書の参考にしている生徒もおり、継続していくことで、普段と違う本に挑戦しようという意欲づけにもなった。半強制的ではあるが、普段あまり読書をしない生徒、図書館に来ない生徒にとって、図書館を覗いてみる、本選びをしてみるという機会を作る上でも効果的な課題であると思われる。